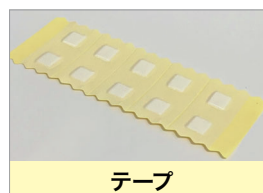


HMG自己注射のご案内

準備するもの

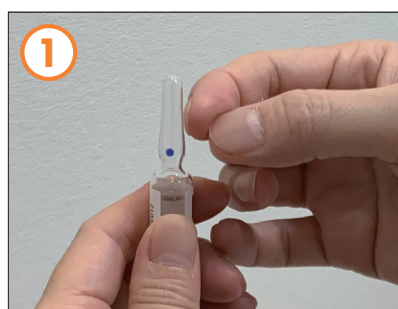
当院でお渡しするもの



ご用意いただくもの



注射方法



アンプルの上部に溶解液がついていることがありますので、軽く指ではじいて、全てアンプルの下の部分に落としてください。



アンプルの青い印の下に、薄く切れ込みが入っています。



アルコール綿(2枚入り)を1枚使用します。指を保護するため、アルコール綿をアンプルの青い印と反対側の細い部分に当てます。



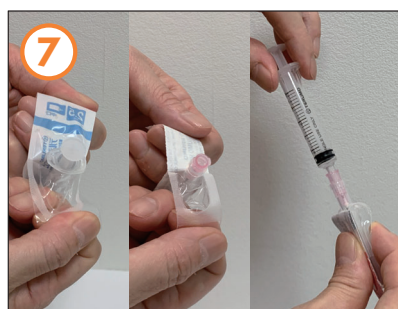
そのまま、青い印側が開くように折ってください。



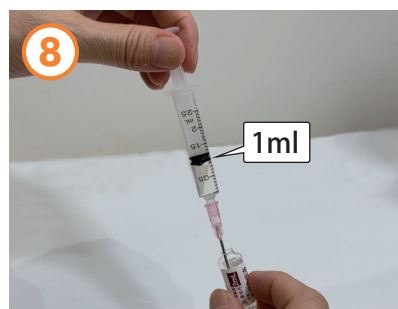
割ったアンプルの蓋は、蓋付き容器の中に捨ててください。



バイアルの蓋を外します。



注射器を取り出し、ピンクの調整用針(18G)に取り付けます。



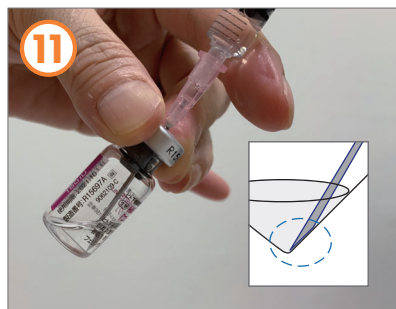
注射器でアンプル内の溶解液を1ml吸い上げてください。注射器の内筒を引くことで液を吸い上げることができます。2ml入りですので約半分の量、または、注射器の目盛りを目安に吸ってください。



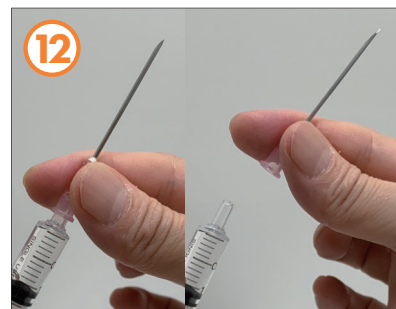
残りの溶解液は使用しません。蓋付き容器の中に容器を捨ててください。



バイアルのゴムの中央に針を刺し、溶解液を注入し薬剤の粉末を溶かします。(全て溶けていることを確認してください)



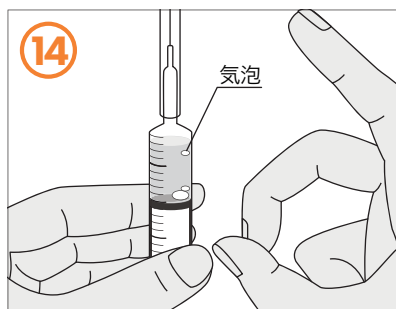
バイアルを傾け、内筒を押したまま針先を底に、針穴を側面につけて手を離し、薬液を吸引します。300単位の場合は、この液を次のバイアルに移し、同様にします。450単位の場合は、さらにもう1バイアル同様にします。



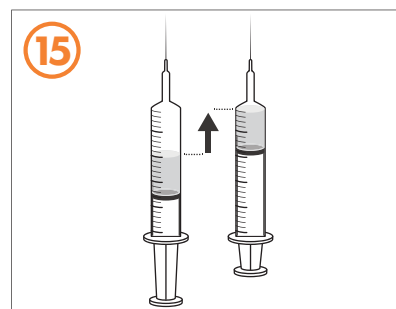
ピンクの調剤用針を注射器から外します。



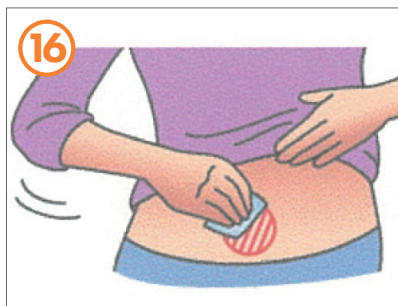
茶色の注射用針(26G)を袋から取り出し、注射器にしっかりと取り付けてください。



針を上向きにして持ち、軽く指先で弾いて気泡を注射器の上まで移動させ、内筒を引いて空気を集めます。

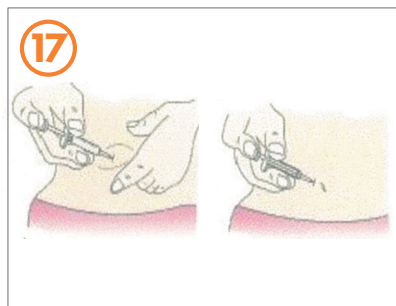


空気を押し出して液面を一番上のラインまで上げてください。空気は多少入っていても問題ありません。これで注射器の準備が完了しました。



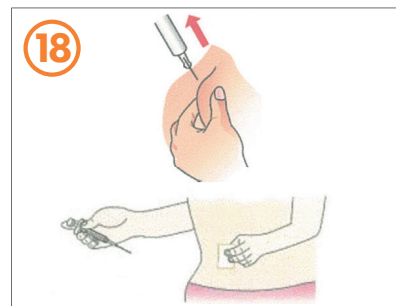
皮膚を消毒します

注射部位(下腹部)をアルコール綿で消毒します。注射部位を中心に外側へ円を描くように拭きます。乾くまで1分ほど待ちます。
※皮膚反応の発現頻度を低下させるために、注射する部位は毎回少しずつ変えてください。



注射をします

消毒した部分の皮膚をつまみ、約45度の角度になるように針を刺します。もしも注射器の中に血液が入ってきたら、針を抜いてもう一度位置を変えて針を刺してください。針の付け根の部分は1/3ほど残すようにしてください。
注射器の薬液がなくなるまでゆっくりと内筒を押します。



針を抜きます

注入が終了したら、ゆっくり3秒数え、ゆっくり針を抜いてください。注射部位をアルコール綿で軽く押さえてからテープを貼ります。
※注射部位は、押しったり揉んだりしないでください。



ご使用後のアンプルと針、注射器は、蓋つき容器に入れてご来院の際にお持ちください。



パッケージやアルコール綿は、ご自宅でゴミとして出していただいて構いません。

注射を打つ時間に決まりはありません。昨日は朝で、今日は夜という打ち方でも構いません。

ご来院時は、クリニックで注射を行います。

自己注射により、神経障害、出血、感染、アレルギー反応などの障害が起こり得ることについては、十分にご了承ください。

また注射液の紛失、量の過不足、注射時の漏れなどの不測の事態においても、すべて患者様の自己責任となることをご了承ください。もし、このような不測の事態が起こった場合は、当院までお電話ください。場合によっては急遽ご来院いただくことがあります。

自己注射をするにあたって、在宅指導料2,000円(税込 2,200円)を周期毎にお支払いいただきます。

薬剤(未使用)の返却は、必ず採卵日までに行ってください。